

# 第5回 幼・保・小合同研修会

令和3年11月22日(月) 午後3時～午後4時40分  
ニコニコこども館 3階 研修室 <オンライン研修>

## 「幼児の育ちが見える幼保小連携の在り方」

～幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と要録のポイント～

講師：高知学園短期大学 副学長（兼幼児保育学科長）教授 山下 文一 先生

講師の山下先生は、幼児教育・幼保小接続・子育て支援がご専門で、「豊かな感性を育む幼児教育研修講座」「幼保小連絡協議会研修」、「私立幼稚園教員子育て支援研修」などの講演をなされています。

第5回の合同研修会では、「幼児の育ちが見える幼保小連携の在り方」をテーマに教育講演をいただきました。これからの教育の方向性や「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」、実践事例を通して幼保小連携がなぜ必要であるかをご教授いただきました。 <参加者62名>

### 1 「これからの教育の方向性」について

- 変化が激しく予測のつかない時代となり、主体的に学び多様な他者と協働し、新たな価値を生み出す資質・能力を求められる。
- 「何を知っているか」⇒「何ができるか」への転換
  - ・知識を有しているから、知識を活用するレベルに深める。
  - ・何かをできるようになるためには、態度や価値観、感情が必要になる。積極的にチャレンジする、へこたれない、粘り強い、再挑戦できるなど非認知能力領域である態度が大きく影響する。
- 社会人基礎力【3つの能力・12の能力要素】（経済産業省有識者会議より）
  - ・前に踏み出す力（アクション）→主体性・働きかけ力・実行力
  - ・考え抜く力（シンキング）→課題発見力・計画力・創造力
  - ・チームで働く力（チームワーク）→発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力

### 2 「幼児期において育みたい資質・能力」について

- 園生活全体を通して、幼児の「生きる力の基礎」を育むことが重要である。
  - ・「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」
- 幼児期と児童期における教育課程の違い
  - ・教育のねらい・目標→幼児期：方向目標 児童期：到達目標
  - ・教育課程→幼児期：経験カリキュラム（一人一人の生活や経験を重視）  
児童期：教科カリキュラム（学問の体系の獲得を重視）
  - ・教育の方法等→個人、友達、小集団 児童期：学級、学年



### 3 「幼児教育と小学校教育の接続」について

- 小学校教育との接続（幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領）
  - ・幼児教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、円滑な接続を図るよう努める。（小学校は、基礎ができているはずと思っているので子どもが学ぶ姿勢を持つよう保育をすることが大切）
- 幼児期の教育との接続（小学校学習指導要領総則）
  - ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。（幼児期の姿を理解した上で学びに向かう）
- 中央区の実践事例「幼児教育と小学校教育9年間の学びをつなぐ」を視聴する。
  - ・共通する教職員の願いである主体的な児童を育成するために幼小9年間を通して対話的な学びを重視し、教育の連続性・一貫性を確保して組織的に行なわれていた。

#### 【アンケートから】

- 連続性を持って、小学校と幼稚園が相互理解を深め交流していくことは、子ども達の育ちに大きな影響を与える取り組みだと思います。（幼稚園）
- 接続を意識したカリキュラムで、9年間の取り組みを行った事例を見て重要性を実感しました。管理職の方のお話も聞くことができ、気付かされることも多くありました。（保育所）